

# LM corsa

60 **OTGGT** MOTORSPORTS GT300  
 ● A.Iida ● H.Yoshimoto

OTGG MOTORSPORTS × INGING MOTORSPORT

RESULT 23th

WEATHER 11日:晴れ/セミウェット 12日:晴れ/ドライ

ENTRY 29台 出走:29台

CAR SYNTIUM LMcorsa RC F GT3

## General comment



AUTOBACS SUPER GTシリーズの第8戦、「MOTEGI GT GRAND FINAL」がツインリンクもてぎで開催された。当初の予定では、オートポリスで行われるはずだった第3戦だが、熊本地震の影響によって中止になり、最終戦と併せてシリーズ初の2レース開催とされた。

LMcorsaが飯田章と吉本大樹に託した「SYNTIUM LMcorsa RC F GT3」こと、レクサスRC F GT3は、全戦完走を目標に戦い、芳しい成績こそ残せずに来たが、最後まで走り続けていた。しかし、前回のタイ、チャンでのレースでその記録は途絶えた。ゴールまであとわずかというところで、アクシデントに巻き込まれてしまったからだ。幸いにして規定周回数を満たしていたため、貴重なチームポイントの獲得には成功した。

最終2連戦の舞台となるもてぎは、ストップ&ゴーが繰り返されるレイアウトで知られ、当然ブレーキを酷使するとともに、エンジンパフォーマンスを何より重視する。また、ここまでSUGO、富士、鈴鹿と続いた「真夏の3連戦」に加え、チャンで暑いレースを戦ってきたが、今回は涼しいを通り越して、寒いレースを戦うこととなった。その極端な温度差が、どう影響を及ぼすか注目された。

さて、今回の走り出しは通常とは異なり、金曜日からとなった。午前9時からの公式練習セッション1はあいにくの雨模様。天気予報では土曜日以降はおろか、午後から雨は止むと伝えているだけに、開始からすぐは走行せず。強く降る雨の中、吉本によるチェック走行が行われるに留まっ



た。なお、このセッション1は3度も赤旗中断があったため、終了後にスケジュールが変更され、1時間の予定を1時間40分間に延長することが発表された。

セッション2では開始と同時に、飯田が「SYNTIUM LMcorsa RC F GT3」をドライブ。予想どおり開始時点で雨はやんでおり、まずはピットアウト～インを繰り返す。しかし、思いのほか路面の乾きが悪かったことから、進めるべきメニューにコンディションがそぐわなかったこともあって、ピットでステイすることとなる。ようやくコースに戻ったのは1時間10分を経過した頃。ドライタイヤを装着した飯田は2分0秒766をマークし、そのままタイムを縮めていくことが期待されたものの、間もなく雨が再び降ってきたからたまらない。

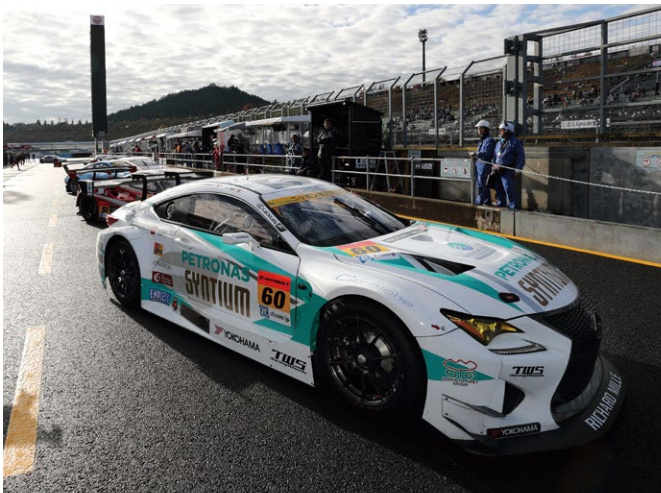
そこでマシンをピットに戻して再びウェットタイヤを装着、残りの時間は吉本が担当することに。徐々に濡れていった路面に、2分1秒334を出すのが精いっぱいだった。

## 予選結果 20th ( 1'59"266 )



天気予報で告げられていたとおり、土曜日は早朝から晴れ模様となっていたものの、路面はあいにくのセミウェット状態。水たまりなどは残っていただけで、予選で周回を重ねるにつれ、乾いていくのは明らかだったが、果たしてどの程度まで……。しかし、中にはドライタイヤを装着したチームもあったが、「SYNTIUM LMcorsa RC F GT3」は迷わずウェットタイヤを選択した。なお、今大会の予選は15分間で1セッションだけ行われ、ドライバーひとりだけ走ればよいが、日曜日の予選を同じドライバーが連続して走ることが許されていない。

第3戦の予選に挑んだのは飯田だった。開始早々にコースインし、まずは路面状態を確認。ドライタイヤでは十分な対応が不可能と判断し、いったんピットに戻ってきた後、タイヤをそのままにアタックを開始することとなる。しっかりウォームアップを行なってタイヤに熱を入れた後、まず2分4秒台に入れ、次の周には1秒台と着実にタイムを詰めていく飯田。そしてラストアタックでは1分59秒266を叩き出し、それから間もなくチェッカーが振られることに。この結果、「SYNTIUM LMcorsa RC F GT3」は10列目、20番グリッドから第3戦決勝レースに挑むことが決定した。



## 決勝結果 20th (49 laps)



普段のレースなら、予選と決勝の間にフリー走行が行われるが、今回はレースごと1日での実施のため、決勝のスタート進行の始まりと同時に進行されるウォームアップが8分間から15分間に延長されていた。ここを走ったのは、スタートを担当する飯田だった。しかし、1分51秒742を記して、わずか2周で走行を終了したのは、タイヤ温存のため。それほど過酷な戦いとなるのは、もはや必至であった。

決勝では心配されたアクシデントもなく、クリーンスタートが切られて「SYNTIUM LMcorsa RC F GT3」の飯田は、まずオープニングラップを2ポジションダウンの22番手で終えるが、抜いていったのがいずれもターボを備える車両とあっては、まだ十分にタイヤが温まっていない状態ではやむを得まい。そして、2周目に差し掛かって間もなく、2か所でアクシデントが発生したためセーフティカーが5周到りわたってコースイン。必然的にふたつポジションを上げることとなる。仕切り直し後



も、飯田はまったく危なげない走りを見せて、コンスタントにラップを刻み続けていった。

吉本へのバトンタッチは、31周目。その後、「SYNTIUM LMcorsa RC F GT3」は大きく順位を落とすも、前後にライバルが存在しない状態で淡々と周回を重ねていく。ライバルの脱落で順位を上げていった結果、47周目には20番手に。最大の目標とする完走に向けて、我慢に我慢を重ねた成果として、そのまま順位を保ってゴール。そして貴重なチームポイント「3」を獲得することとなった。あとは最終戦を残すのみに。



## Director's comment



チーム監督

小林 敬一

Keiichi  
Kobayashi<http://www.koba-pla.net/>

タイからクルマが日本に戻ってきて、短期間のうちに修復を行わなくてはならなかったのですが、ちょっと心配ではありましたが、いざ本番を迎えると問題なく調子良く走ってくれたので、考えていたおりのメニュー、目的を果たすことができたので、それはそれで良かったと思います。今回、しっかり完走を果たしてくれましたが、チームランキングではもう少し上に行きたい。そのためには最後のレースで、必ず上の順位でゴールしなくてはならない競合車両がいるので、そこにしっかり集中して、みんなで頑張りたいと思っています。

## Driver's comment 1



ドライバー

飯田 章

Akira  
Iida<http://akira.jp/>

どんな状況でも厳しい戦いであるのは間違いないんですが、いつに無く予選はラッキーで、相性のいいウェットコンディションで今季最上位グリッドを獲得できました。そこまでは良かったんですが、完全にドライになった決勝はやっぱり厳しかったですね。でも、レースが終わってみると、予選と同じ順位でゴールできたのでね。まあ、なんとかというところですよ。次のレースもリタイアしないよう、頑張ります。

## Driver's comment 2



ドライバー

吉本 大樹

Hiroki  
Yoshimoto<http://www.hiroki-yoshimoto.com/>

予選がドライじゃなかったんで、アキラさんのアタックでいつもより前の順位を獲得できました。でも、決勝はドライでしたから、いろいろと今までの展開を考えると、ひたすら抜かれていくレースになるのかなと思っていて、実際抜かれはしたんですが、他のクルマが落ちていったり、僕らも思った以上のペースで走れたりしたので、予想よりもいい結果が残りました。序盤のクラッシュは気の毒でしたが、セーフティカーが入ったことでギャップが詰まった状態の時間が続いたこともあって、2周遅れにならなくて済みましたし……。おかげで獲れるとは思わなかった完走ポイント、3ポイントが獲れたので良かったです。明日のレースもしんどいとは思いますが、今日の良かった流れを意識して、また3ポイント獲れるようにしたいですね。

